

予防医療の進歩

■HPVワクチン接種への取り組み

6月29日のさきがけ新聞に「がん予防HPVワクチン／にかほ市／無料接種、男性にも／県内初、費用を全額助成」という記事が掲載されました。

HPVワクチンについては過去の市長コラム（No.48）にてすでにお知らせしてまいりましたので詳細は省きます。一点だけ、昨年度まで、全国でしかほ市だけが女性へのHPV9価ワクチンの全額助成を実施していましたが、今年度からは定期接種になったことで市の単独負担がなくなりました。そこで、次の一步としてはじめたのが男性のHPVによるがんの予防ワクチン接種費用の一部助成です。

■带状疱疹ワクチン接種について

新たな取組みとして検討しているのが带状疱疹（たいじょうほうしん）ワクチン接種への助成です。带状疱疹とは、子どものときに感染する水ぼうそうウイルスが原因でおこる皮膚病です。水ぼうそうが治ったあとも、日本人成人の90%以上はこのウイルスが残っています。带状疱疹の発症率は50歳から急に高くなりま

す。それは年齢とともに免疫力が弱まるからで、80歳までに3人に1人が带状疱疹になると言われています。带状疱疹は、ストレスなどで免疫力が低下したときに、ウイルスが再活性化して発症します。带状疱疹に体の神経にそって赤い斑点と水ぶくれが、とくに上半身や顔面、目の周りに発生し、しかもピリピリ

と刺すような痛みをとまいません。治療は抗ウイルス薬の服用が基本ですが、約20%の人に後遺症がのこるとされており、予防の大切さを強く言われています。そして、その予防方法のひとつがワクチン接種ということになります。

最近新しい带状疱疹ワクチンをPRするCMを見る機会が多くなっています。ただ、このワクチンはまだ任意接種であるために高額な自己負担がかかります。近頃は、多くの自治体で独自助成をしながらワクチン接種をすすめています。県内の他市町村の多くでもすでに一部助成を実施しています。にかほ市も早期の実施にむけた検討をしているところです。

■肺炎球菌ワクチンのはなし

ちよっと昔のはなしになります。15年前のはなしです。平成20年3月議会で、私は「肺炎球菌ワクチン予防接種への公費助成を制度化することの必要性」を一般質問したことがあります。

高齢者が亡くなるおもな原因の一つが肺炎です。たとえば、新型コロナウイルスににしても、結局のところ重症化とは肺炎になることです。いま肺炎球菌ワクチンは65歳以上の高齢者への定期接種となり、市は1回限り3千円を助成しています。このワクチンの効果は5年間ですが、その予防効果を考えればワクチン接種はとても大切だと思います。

15年前はまだ肺炎球菌ワクチンを知っている人が少なく、原則的に任意接種で

した。費用は1回8千円でしたが、年金生活者にとっては大きな負担でした。そこで市が助成するべきでないかということとを一般質問の中で述べたわけです。

■生活の質を向上させる

医薬品の進歩によって、これまで予防や治療ができなかったものができるようになってきています。必ずしも命を守るというはなしだけではありません。

たとえば、それまで疾患によって生活の質が保てないでいたものが、あらたな治療薬のおかげで劇的に改善しはじめています。予防ではありませんが、最近、アトピー性皮膚炎のかゆみを抑える新薬が次々とできてきています。かゆみがなくなったりと、アトピー性皮膚炎によって苦しんでいた人たちの人生そのものが劇的にかわると思います。

いま新たなワクチンや治療薬が、予防医療を大きく前進させています。そして、予防医療は健康寿命をのばす一次予防としてだけでなく、命を守り、生活の質を高め、本人をとりまく家族全体の苦しみをもやわらげる役割を果たしてくれているのです。



にかほ市長
市川雄次

創造を

想像する

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

